

エキソニモ 個展『CONNECT THE RANDOM DOTS』開催のご案内

展覧会名：エキソニモ 『CONNECT THE RANDOM DOTS』

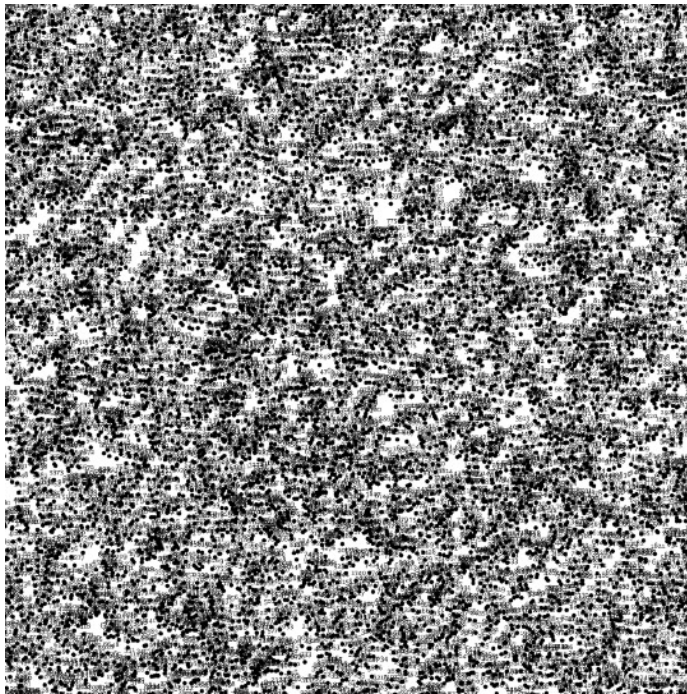
会 期：2021年10月16日（土） - 11月14日（日）

- ・オープニングレセプションは開催致しません。
- ・会期中は、水～土 12-19時、日 12-17時のオープンとなります。（定休日：月火祝）
- ・社会情勢によっては、会期等変更になる場合がございます。最新情報はウェブサイトに掲載します。

会 場：WAITINGROOM（〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2 長島ビル1F）

WAITINGROOM（東京）では、2021年10月16日（土）から11月14日（日）まで、エキソニモの個展『CONNECT THE RANDOM DOTS』を開催いたします。エキソニモは、千房けん輔と赤岩やえにより1996年に結成されたニューヨーク在住のアートユニットです。当時普及し始めたばかりであったインターネット上での作品発表を皮切りに、パフォーマンスやイベントオーガナイズなど、独自のユーモアをもってインターネットと現実を軽やかに行き来するような様々な活動を行い、25年にわたり日本のメディアアートを牽引してきました。当ギャラリーでは2年ぶりの個展となる本展は、「ランダム」をテーマにした新作で構成されます。子どもの知育に用いられる「点つなぎ」から着想を得た本を制作・販売し、そのページを展覧会空間へ展開します。また、各ページの所有者になれる権利をNFTとして販売し、さらにはページの所有者の情報を見ることができるwebサイトを公開するなど、様々な角度から「価値」や「所有」についてを問う試みとなります。

展覧会特設サイト：<https://connect-the-random-dots.ooo>



《CONNECT THE RANDOM DOTS》2021年、イメージ

作家・エキソニモ (exonemo) について

千房けん輔と赤岩やえによるアートユニット。1996年にインターネット上で活動を開始。2000年から実空間でのインスタレーションやパフォーマンス、イベントオーガナイズ等へ活動を広げ、2015年からはニューヨークを拠点に活動中。2006年、世界的なメディアアート・フェスティバルであるアルス・エレクトロニカのネット・ヴィジョン部門でゴールデン・ニカ賞（大賞）を受賞。2012年には10数名のメンバーと共にIDPW（アイパス）を組織し、「インターネットヤミ市」をはじめとするイベントを国内外で開催。2020年に開催された個展『エキソニモ UN-DEAD-LINK アン・デッド・リンク [インターネットアートへの再接続]』（東京都写真美術館、東京）にて令和2年度（第71回）芸術選奨 美術部門 文部科学大臣新人賞を受賞しました。近年の展覧会として、2021年グループ展『I am here by WAITINGROOM』（CADAN有楽町、東京）、2019年グループ展『あいちトリエンナーレ2019』（愛知県美術館、愛知）、2018年グループ展『ハロー・ワールド ポスト・ヒューマン時代に向けて』（水戸芸術館、茨城）、『メディアアートの輪廻転生』（山口情報芸術センター[YCAM]、山口）などが挙げられます。2021年には、大林財団の助成制度「都市のヴィジョン - Obayashi Foundation Research Program」第3回のアーティストに選出されました。

↓ <次頁> 展覧会について

アーティスト・ステートメント

“ランダムには深い業のようなものを感じる。”

僕たちは生まれる場所や時代、容姿や性別、性格だって自分で選んでいない。ランダムに決定されたとも言えるこれらのパラメーターを、時に憎み、むしろ固執しつつ、後から獲得したパラメーターよりも大切にしていたりする。そんなランダムな自分に意味を与えていくのが人生だとも言える。

「Connect the random dots」は、子供の絵本によくある、順番にドットを繋いで絵を描く遊びから着想している。ドットの位置はランダムにコンピュータで生成され、順番に線をつないでも意味のある形は描かれない。誰が書いても同じような結果になるだろう。ランダムな原因を元に、ランダムな結果を得るための行為にどんな意味があるのだろうか。そんなつかみどころのない行為にこそ、シンプルな合理性の向こう側にあるアートや、さらには人間の存在の意味を見つめる眼差しがある気がしている。

また今回の試みとして、制作された本の各ページの所有権が販売される。データはNFT化されてブロックチェーンに記録され、所有者同士は小さなコミュニティとして可視化される。ランダムに集められたコレクターたちを繋ぐ線を描いていくこと。また展覧会後も続く繋がりを作っていくこともこのプロジェクトの試みなのだ。

ランダムなドットになった気分で展覧会を訪れ、どこかにあるかもしれない他のランダムなドットと繋がる線を探してみてください。”
エキソニモ

点と点の繋がりが生む「価値」の形

2021年3月頃から国内のアート業界でも大きな話題となっているNFTは、複製が容易なデジタルデータの唯一性を証明することを可能にし、美術界に新たな潮流を生み出しつつあります。ネットワーク世界と現実世界を柔軟に行き来するような活動を行うアーティストデュオ・エキソニモも、2021年4月に自身初のNFT作品を発表し、8月にはNFT作品を現実空間に展示する試みを行いました。

「ランダム」をテーマとした新作を軸に構成される本展では、エキソニモが制作した本のページの所有者になれる権利をNFTとして販売します。誰が線を引きても同じ図像が表れる「点つなぎ」遊びにおいて作家自らが線を描いているということにどのような価値があるのか、展示されるページ自体は販売対象ではなく、それを所有する権利を購入するというのはどのようなことなのかなど、一つの遊びを軸に様々な角度から「価値」を問うていきます。

NFTを始めとする新たな技術が登場するたびに、私たちは半ば巻き込まれるようにしながら次第に慣れていき、これまでになかった価値観が形成されていきます。私たちが現在当たり前と思っている価値観も、もしかしたら、ランダムに存在した点と点や人と人が、偶然繋がって形作られたものなのかもしれません。本展は、エキソニモ独自のユーモアをもって、「価値」や「所有」について軽やかに問うような試みとなるでしょう。

トークイベント

会期中、CADAN Art Channelにて、zoomウェビナーを使用したトークイベントを行います。*要参加予約

日時：2021年10月23日（土）10:00-

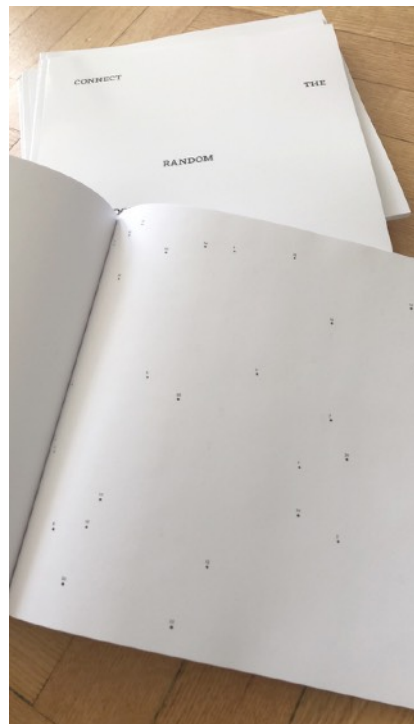
登壇者：エキソニモ（アーティスト）、水野勝仁（メディアアート・インターフェイス研究者／甲南女子大学文学部メディア表現学科准教授）、高尾俊介（クリエイティブコーダー／甲南女子大学文学部メディア表現学科講師）、芦川朋子（WAITINGROOMディレクター）

参加費：無料

主催：一般社団法人 日本現代美術商協会（CADAN）

運営：ミューゼオ株式会社

*予約先サイトのリンク等、追ってWAITINGROOMのウェブサイトでご告知します。



《CONNECT THE RANDOM DOTS》2021年、イメージ

エキソニモ (exonemo)

1996年 千房けん輔と赤岩やえによってインターネット上で活動を開始
2015年よりニューヨークを拠点に活動中

個展

2020

アン・デッド・リンク - 東京都写真美術館 (東京)
Slice of the Universe - Masahiro Maki Gallery (東京)

2019

U & I - NOWHERE (ニューヨーク・アメリカ)
LO - WAITINGROOM (東京)

2018

The Life-Cycle of Interfaces - New Media Artspace gallery,
Baruch College Library 1F-4F (ニューヨーク・アメリカ)

2017

Milk on the Edge - hpgrp Gallery (ニューヨーク・アメリカ)

2013

TO THE APES - 三菱地所アルティウム (福岡)

2008

UN-DEAD-LINK - Plug.in (バーゼル・スイス)

2006

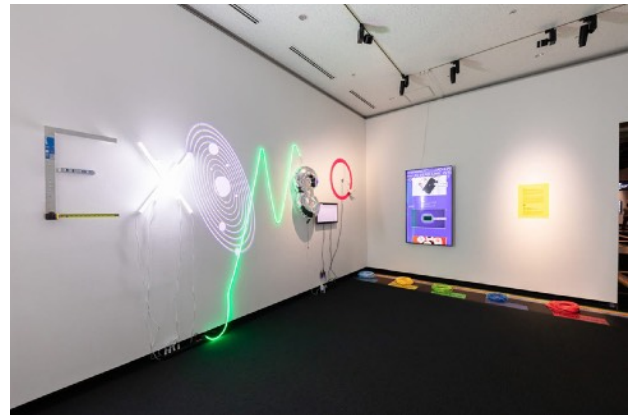
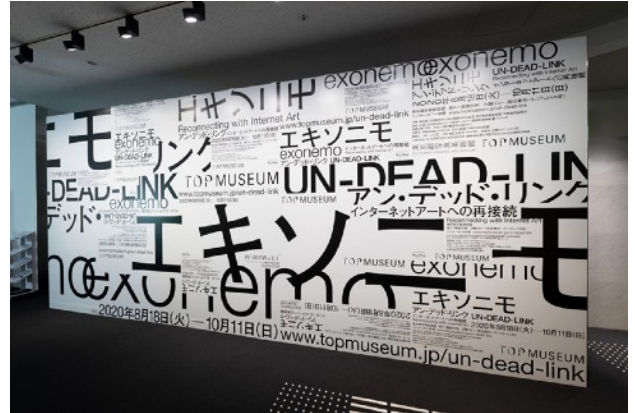
WORLD B - 山口情報芸術センター[YCAM] (山口)

2003

new FUNKtion - 広島市現代美術館 (広島)

2000

DISCODER - commandN (東京)



上下とも：2020年個展『アン・デッド・リンク』展覧会風景
(東京都写真美術館、東京)
Photo by Ryuichi Maruo

主なグループ展

2021

I am here by WAITINGROOM - CADAN有楽町 (東京)

2020

10TH - WAITINGROOM (東京)
恵比寿映像祭 - 東京都写真美術館 (東京)

2019

来るべき世界 科学技術、AIと人間性 - 青山学院大学 青山キャンパス (東京)
あいちトリエンナーレ2019 情の時代 - 愛知県美術館 (愛知)
The Invisible Hand - 4A Centre for Contemporary Asian Art (シドニー・オーストラリア)
Reincarnation of Media Art - WRO Art Center (ワルシャワ・ポーランド)
TECH ART FOR COLLECTORS - ARTJAWS SPECIAL GUEST EXHIBITION - Zürcher Gallery (ニューヨーク・アメリカ)
光るグラフィック展 - クリエイションギャラリーG8 (東京)
ARTPORT: SUNRISE/SUNSET - ホイットニー美術館 (ニューヨーク・アメリカ)

2018

Ars Electronica Festival 2018: ERROR - THE ART OF IMPERFECTION - Gallery Space (リンツ・オーストリア)
Indonesian Netaudio Festival 2018 - Jogja National Museum (ジャカルタ・インドネシア)
メディアアートの輪廻転生 - 山口情報芸術センター (山口)

主なグループ展（続き）

2018

Rhizome Net Art Anthology - Rhizome - New Museum（ニューヨーク・アメリカ）
 オープン・スペース2018 イン・トランジション - NTTインターコミュニケーション・センター（東京）
 New Japan. Observer Effect - Solyanka State Gallery（モスクワ・ロシア）
 Gradation - hpgrp gallery（ニューヨーク・アメリカ）
 Micro Internet Yami-ichi - NADA Art Fair（ニューヨーク・アメリカ）
 ハロー・ワールド ポスト・ヒューマン時代に向けて - 水戸美術館（茨城）

2017

Forever Fornever - Rhode Island College, Bannister Gallery（プロビデンス・アメリカ）
 SIGHT+SOUND 2017 - Never Apart（モントリオール・カナダ）
 Ars Electronica in Berlin 2017 - DRIVE. Volkswagen Group Forum（ベルリン・ドイツ）
 World Wide Water - Friday Late x Boiler Room, Victoria and Albert Museum（ロンドン・イギリス）
 CAPRI BY NIGHT - Schauspiel Köln（ケルン・ドイツ）
 NARS Spring Open Studios - NARS Foundation（ニューヨーク・アメリカ）
 Landscapes: New vision through multiple windows directed by exonemo - Japan Creative Centre（シンガポール）

2016

Spirit and Digit - Electro Museum（モスクワ・ロシア）
 Hybrids: On the borderline between Art and Technology - Onassis Cultural Centre（アテネ・ギリシャ）
 POSTDIGITAL ECOSYSTEMS - Babycastles（ニューヨーク・アメリカ）
 Digital Illusion - Gallery Senne（ブリュッセル・ベルギー）
 DA DA * DA! - ハッキング・アート x ライフ - ゲーテ・インスティトゥート東京（東京）
 Internet Bedroom @Print Screen Festival - Print Screen Festival（ホロン・イスラエル）
 Single channel - Anthology Film Archives（ニューヨーク・アメリカ）
 Internet Yami-ichi in London - Offprint festival, Tate Modern（ロンドン・イギリス）
 オープン・スペース 2016 メディア・コンシャス - NTTインターコミュニケーション・センター（東京）
 Eco Expanded City - WRO Art Center（ヴロツワフ・ポーランド）

2015

First Look: Real Live Online - New Museum（ニューヨーク・アメリカ）
 HOLIDAY BRING YOUR OWN BEAMER NYC - REVERSE + BABYCASTLES - Reverse（ニューヨーク・アメリカ）
 Refest - La MaMa（ニューヨーク・アメリカ）
 The Vault - Image, perception, the alchemy of light - ACT Center（光州・韓国）
 Elements of Art and Science - Ars Electronica Center（リンツ・オーストリア）
 Post City - Ars Electronica Festival（リンツ・オーストリア）
 Memory Burn - bitforms gallery（ニューヨーク・アメリカ）
 山口小夜子 - 未来を着る人 - 東京都現代美術館（東京）
 3331 ART FAIR 2015 - 3331 Arts Chiyoda（東京）

2014

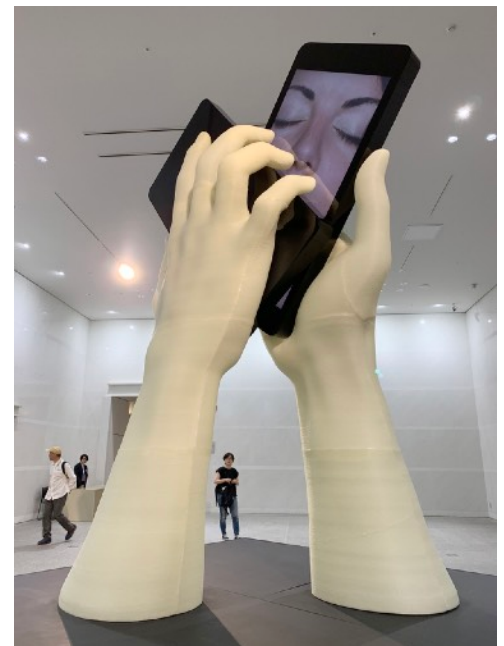
光の洞窟 - kumagusuku（京都）
 CODE: 「私たちの時代の言語」展 - グランフロント大阪 北館 ナレッジキャピタル The Lab.（大阪）
 大古事記展 - 奈良県立美術館（奈良）
 BCTION - 四谷の廃ビル（東京）
 札幌国際芸術祭 - 札幌駅前通地下歩行空間 [チ・カ・ホ]（北海道）
 Good Morning Mr. Orwell 2014 - Nam June Paik Art Center（龍仁・韓国）
 Art Hack Day Berlin: Afterglow - transmediale（ベルリン・ドイツ）

2013

Better Than Universe - Daegu Media Art ZKM 2013（大邱・韓国）
 Republic of the Two - Arko Art Center（ソウル・韓国）
 Money After Money - EYE OF GYRE（東京）

2012

Media City Seoul - Seoul Museum of Art（ソウル・韓国）
 第4回 恵比寿映像祭「映像のフィジカル」 - 東京都写真美術館（東京）
 [インターネット アート これから+] - ポスト・インターネットのリアリティ - NTTインターコミュニケーション・センター（東京）



《The Kiss》2019年 展示風景
 あいちトリエンナーレ2019（愛知県美術館、愛知）

↓ <次頁> 作家略歴（つづき）

主なグループ展（続き）

2011

世界制作の方法 - 国立国際美術館（大阪）

YCAM LabACT vol.1 "The EyeWriter" - 山口情報芸術センター（山口）

Little Tokyo Design Week 2011 - Little Tokyo City（ロサンゼルス・アメリカ）

2010

みえないいちから - NTTインターコミュニケーション・センター（東京）

Random Access - Nam June Paik Art Center（ソウル・韓国）

文化庁メディア芸術祭協賛事業「サイバーアーツジャパン—アルスエレクトロニカの30年」 - 東京都現代美術館（東京）

可能世界空間論—空間の表象の探索、のいくつか - NTTインターコミュニケーション・センター（東京）

2009

《ゴットは、存在する。》オープン・スペース 2009 - NTT インターコミュニケーション・センター（東京）

eARTS BEYOND - Oriental Pearl TV Tower（上海・中国）

CODED CULTURES - The frei_raum Q21（ウィーン・オーストリア）

Between Site & Space - ARTSPACE（シドニー・オーストラリア）

2008

YUDA ART PROJECT - 湯田温泉地区／山口情報芸術センター（山口）

都市のディオラマ: Between Site & Space - トーキョーワンダーサイト渋谷（東京）

LISTE 08 -The Young Art Fair（バーゼル・スイス）

SYNTHETIC TIMES - National Art Museum of China（北京・中国）

2007

Beautiful New World, Long March Space/Inter Art Center/Guangdong Museum of Art（北京、広州・中国）

ポケットフィルム・フェスティバル2009 - 東京藝術大学大学院映像研究科横浜校地馬車道校舎（神奈川）

青葉緑日 2 - せんだいメディアテーク（宮城）

My Own Private Reality - Edith Russ Site for Media Art（オルデンブルク・ドイツ）

L'Expérience Japonaise - Le Haut-parleur culturel à Marseille [WAAW]（ニーム・フランス）

オープン・スペース 2007 - NTTインターコミュニケーション・センター（東京）

DEAF07: Interact or Die! - Las Palmas（ロッテルダム・オランダ）

Lab*Motion - トーキョーワンダーサイト本郷（東京）

2006

コネクティング・ワールド：創造的コミュニケーションに向けて - NTTインターコミュニケーション・センター（東京）

CyberArts 2006 - O.K. Centrum（リンツ・オーストリア）

Cyberlounge - Museo Tamayo（メキシコシティ・メキシコ）

オープン・スペース - NTTインターコミュニケーション・センター（東京）

AIT HOUR MUSEUM - パナソニックセンター東京（東京）

KANDADA - command N KANDADA（東京）

2005

MobLab - 情報科学芸術大学院大学／NTT インターコミュニケーション・センター／せんだいメディアテーク／彩都IMI大学院スクール／山口情報芸術センター（岐阜・東京・宮城・大阪・山口）ほか

Rock the Future - FACT（リバプール・イギリス）

Jakarta Video Festival 2005（ジャカルタ・インドネシア）

Beijing International New Media Arts Exhibition - China Millennium Museum（北京・中国）

愛・地球博（愛知）

アート・ミーツ・メディア：知覚の冒険 - NTTインターコミュニケーション・センター（東京）

2004

SonarSound Extra - 恵比寿ガーデンプレイス（東京）

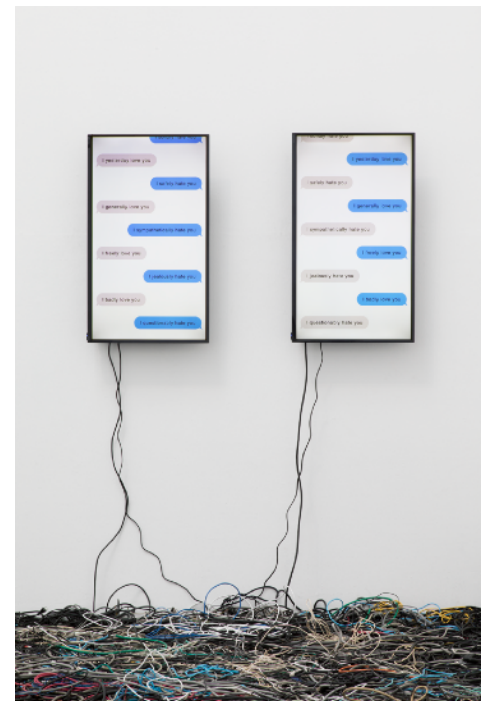
Nam June Paik Award 2004 - Phoenixhalle（ドルトムント・ドイツ）

リアクティビティ—反応＝再生する可能性 - NTTインターコミュニケーション・センター（東京）

Tokyo Style in Stockholm - Beckmans School of Design（ストックホルム・スウェーデン）

Navigator - National Taiwan Museum of Fine Arts（台中・台湾）

ネクスト：メディア・アートの新時代 - NTTインターコミュニケーション・センター（東京）



《I randomly love you/ hate you》2018年 展示風景
『ハロー・ワールド ポスト・ヒューマン時代に向けて』
（水戸芸術館現代美術ギャラリー、茨城）
photo by Shintaro Yamanaka (Qsyum!)

主なグループ展（続き）

2004

Mediarena: contemporary art from Japan - Govett-Brewster Art Gallery（ニュープリマス・ニュージーランド）

六本木クロッシング：日本美術の新しい展望 2004 - 森美術館（東京）

SHIDA TEN - nou LABORATORY（東京）

2003

メディア・ソケット 多層なる創造圏 - 山口情報芸術センター（山口）

2002

AIT HOUR MUSEUM 2002 - 旧桜川小学校体育館（東京）

アート.ビット コレクション展 - NTTインターコミュニケーション・センター（東京）

program - アサヒ・アート・フェスティバル2002（東京）

Akihabara TV3 - command N（東京）

2001

Istanbul Biennial - The Imperial Mint（イスタンブール・トルコ）

EXPO KOBE 2001 - ポートアイランド（兵庫）

BUZZ CLUB: news from Japan - MoMA PS1（ニューヨーク・アメリカ）

メッセージ/ことばの扉をひらく展示2「記憶の扉」 - せんだいメディアテーク（宮城）

2000

mediaselect 2000 - 名古屋港ガーデンふ頭（愛知）

Ars Electronica Festival 2000 - Ars Electronica Center（リンツ・オーストリア）

Spiral Super Sign Project - SPIRAL（東京）

TECH.POP.JAPAN - International Film Festival Rotterdam（ロッテルダム・オランダ）



2018年個展『LO』展覧会風景（WAITINGROOM、東京）
Photo by Shintaro Yamanaka (Qsyum!)

アワード

2021年 令和2年度（第71回）芸術選奨選出 文部科学大臣新人賞受賞

2021年度 大林財団 制作助成制度「都市のヴィジョン - Obayashi Foundation Research Program」

2016年 平成27年度 吉野石膏美術振興財団 美術に関する国際交流の助成（ニューヨーク・アメリカ）

2015年 平成27年度 文化庁新進芸術家海外研修（ニューヨーク・アメリカ）

2010年 東京TDC賞2010 RGB賞

2006年 アルス・エレクトロニカ ネット・ヴィジョン部門 ゴールデン・ニカ賞

2000年 アルス・エレクトロニカ .Net部門 Honorary Mention（栄誉賞）

1997年 Javaグランプリ 大賞受賞

パブリックコレクション

東京都写真美術館

Google Inc.

アーティストウェブサイト

<http://exonemo.com>

アートウィーク東京

東京都内のギャラリーや美術館をバスで巡る4日間のアートイベントに参加します。

WAITINGROOMは、バスルートDでの参加となります。

会期：2021年11月4日（木） - 7日（日）

主催：一般社団法人コンテンツポラリーアートプラットフォーム（JCAP）

協力：Art Basel（アートバーゼル）、一般社団法人 日本現代美術商協会（CADAN）

詳細：<https://www.artweektokyo.com>



※本展に関するお問い合わせは、下記連絡先までお願いいたします。

WAITINGROOM（代表：芦川朋子）

住所：〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2 長島ビル 1F

営業時間：水木金土 12-19時・日 12-17時

定休日：月火祝

Tel：03-6304-1877 Eメール：info@waitingroom.jp

Web：<http://waitingroom.jp>

※本展開催・会期についての注記

新型コロナウイルス感染拡大に関連する社会情勢によっては、
会期等が変更になる可能性があります。

最新情報は、弊社ギャラリーウェブサイト、各SNSにて
随時配信して参りますので、そちらをあわせてご確認頂けま
したら幸いです。